

未来へ飛躍する 自由・自治都市 堺



堺市消防局長 辻本 厚夫

堺市は、古代には、世界最大級の墳墓である仁徳天皇陵古墳をはじめとする^も百舌鳥古墳群が築造され、また、中世には、わが国の海外交易の拠点として繁栄し、「自由・自治都市」を形成するなど、輝かしい歴史と伝統を有する都市です。

昨年、日本最大級となる「堺太陽光発電所」が全面運転を開始するとともに、ユネスコ「アジア太平洋無形文化遺産研究センター」や「シンガポール共和国名誉総領事館」などの国際機関も開設されました。また、今年4月には、サッカーとフットサルのフィールドを22面備えた日本最大級の施設規模を有する「J-GREEN堺」において、将来のなでしこジャパンをめざす女子中学生を対象とした「JFAアカデミー堺」が開校しました。百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録に向けての取り組みや文化観光拠点の整備などを進め、国内外から多くの人々が訪れる、魅力にあふれ賑わいのあるまちづくりに取り組んでいます。

消防体制につきましては、平成20年9月30日に堺市と高石市の協議により堺市高石市消防組合を解散、同年10月1日に高石市の消防事務（消防団及び消防水利関係を除く）を受託し、一元的な防災体制として新たに堺市消防局を設置してから、はや4年が経過しました。

現在、当消防局では、消防防災拠点施設の整備として、老朽化した庁舎の移転建替事業を順次進めるとともに、東南海・南海地震など大規模災害の発生が懸念される中、自助・共助・公助の連携による地域総合防災力の向上を図るため、（仮称）堺市総合防災センター整備事業を推進しています。また、市民病院の移転建替と併せ、救急救命士を含む救急隊員の知識・技術の維持、向上を目的とした教育の拠点となる（仮称）救急ワークステーションの整備を進めています。

さらには本年10月1日より、大阪府から権限移譲された高圧ガス保安法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律並びに火薬類取締法に係る事務を新たに開始しましたが、当局が今まで培ってきたノウハウを活かし、消防法や石油コンビナート等災害防止法と併せた総合的な指導を行うことにより、更なる市民の安全・安心の向上に努めていきます。

近年、我が国では、社会・経済情勢に大きな変化が生じており、また、戦後から続いてきた経済成長を前提とする社会発展モデルも終焉を迎えようとしています。このような中、市民・子ども・産業・まちが元気で、本市が「未来へ飛躍する自由・自治都市」として発展を続けるためには、時代の変化を的確に捉えて、市政のあり方を変革していくことが必要です。消防機関としましても、この変化に的確に対応し、市民の安全・安心を確保するため、地域社会との連携のもと、総合的な危機管理体制の充実強化に全力をあげて取り組んでいきます。